

4月 ほけんだより

令和6年4月15日
 社会福祉法人恵愛学園
 さくらぎ保育園
 24-6186

ご入園・ご進級おめでとうございます。少しずつ新生活に慣れてきた子どもたちですが、発熱・咳の症状でお休みする子が増えています。感染症も出てきていますので、手洗い、うがい、玩具や手指消毒を徹底し、引き続き感染予防に取り組んでいきたいと思ひます。ご家庭でもバランスの良い食事と早寝早起きを習慣とし、ウィルスに負けない丈夫な身体づくりをしていけたらいいと思ひます。今回は溶連菌感染症についてお知らせ致します。

溶連菌感染症の症状は？

症状の代表的なものは、発熱（38～39℃）と“のど”の痛みです。しかし、3歳未満ではあまり熱があがらないと言われています。そして、体や手足に小さくて紅い発疹が出たり、舌にイチゴのようなツブツブができたりします（イチゴ舌）。そのほかに頭痛、首すじのリンパ節の腫れ、腹痛や嘔吐などの腹部症状もみられます。急性期を過ぎますと、発疹のあとには落屑（皮むけ）が認められるようになります。風邪と違って咳や鼻水が出ないというのもこの病気の特徴です。この病気には潜伏期間があり、実際に感染してからだいたい2～5日で症状がでます。

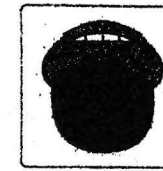
主な症状・所見



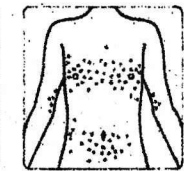
高熱



咽頭発赤



イチゴ舌



発疹

抗菌薬は溶連菌を退治するまで飲む

お薬を飲み始めると、2～3日で熱が下がり、のどの痛みもやわらいでできます。発疹が出た場合、急性期を過ぎて、手足の指先から始まる落屑（皮むけ）が認められるようになります。確実に溶連菌を退治し、重大な合併症（合併症）を引き起こさないために、症状が消えても抗菌薬はしばらく飲み続けなくてはけません。一部の抗菌薬以外は、5～10日間飲み続ける必要があると言われていいますので、医師の処方どおりに最後まで飲ませることが大切です。

